



## 1) 高卒予定者の職場見学

暑さもまだまだ続きますが、いかがお過ごしでしょうか。夏休みの時期は来年3月に高校を卒業する就職希望の生徒さんにとっては事業所見学の季節でもあります。7月1日の解禁日から大急ぎで各高校に求人票をお届けし、それからは学校からの見学申し込みの電話を今か今かと待ち侘びる毎日。その甲斐があって現在までで7名の高校生が見学に来てくれました。見学当日はまさに(手ぐすねを引いて)逃すまいと必死の思いで対応しますが、時には熱くなりすぎて高校生も引き気味に…。それでも帰り際に高校生のニコリとした笑顔を見ると「きっとあの子は来てくれるよな!」と、まるでお見合い相手を見送るような気分でいつまでも後姿を目で追ってしまいます。

少子化が尋常でない勢いで進んでいる昨今、若い人材はますます得難いものになってきています。人口推計で見ると青梅市も20年後には年少人口(0歳以上~15歳未満)が10,000人を割り込み、生産年齢人口(15歳以上~65歳未満)が40,000人も減少してしまいます。高度経済成長の頃、集団就職者を「金の卵」と呼んでいましたが、今はまさに「金の卵」。これから先を考えるとそれ以上になっていくのかもしれない。



## 2) 夏の夕暮れ

オリンピック開幕前日の施設の玄関前。はっぴを着たり少し飾りつけをしたりと雰囲気作りにも一工夫しました。そして6時いよいよ穂先に火がとります。パチパチと弾ける花火の音、立ち上る煙、蝸の声、ガリガリと削るかき氷の音。少しずつ暗くなるにつれ、より火花が鮮明に映ります。ほとぼるススキ花火の火花には歓声が、線香花火には息をひそめて、新手の「ひとだま」花火はゆらゆらと怪しげに。そして自然に出てくる「昔はね...」。ディズニールランド大好きの方が「こんなじゃなくて、もっとド〜んと!」と両手を挙げてのリクエストですがさすがにそこまでは。夏の夕暮れのひと時を笑顔で楽しんで頂きました。(※写真を撮るときくらいマスクをずらして下さいね。)



## 3) BCP (災害時における事業継続計画) 策定研修会



相次ぐ災害や新型コロナウイルスの蔓延を受け、この4月の制度改正で高齢者施設におけるBCP策定が義務付けられました。今回は施設内で新型コロナ患者が発生したとの想定に基づくBCP策定の取り組みをご紹介します。施設内での蔓延を防止する目的で作られるのが「蔓延防止マニュアル」であるのに対し、施設内で蔓延してしまったことを想定して、その中で施設介護を継続していくために策定するのがBCPです。今回は東京都のBCP策定支援事業を活用して、コンサルティング会社の方からWEBで指導を受けました。今年6月末の統計資料では、発生したクラスターの割合は「病院」が全体の3%なのに対して「高齢者施設」は21%となんと7倍になっています。昨年末まではほぼ同数でしたが、今や新型コロナのク

クラスターは高齢者施設で起こっていると言える状況です。ましてやこれからインド由来の「デルタ株」が流行の中心になるとのこと、私たち高齢者施設としてはこのような機会を真剣に活用しなければなりません。BCPの中心は

- ①施設内感染が起こった際の職員間の役割分担を明確にしておき、何より適切な初動が取れる為の体制整備。
  - ②各連絡先や情報公開に関する整備。
  - ③ゾーンニング等の具体的想定と準備。
  - ④職員の出勤率に合わせた業務内容の優先順位に基づく再編成。
  - ⑤必要な物品管理等
- などが主な内容です。

一方、感染症防止対策の整備も進めています。現在全職員対象に毎週実施しているPCR検査、発熱者が出た場合の個別PCR検査、お客様用テーブルへのアクリル板の設置、共用部や各居室へのウイルス用空気清浄機の設置など設備面での整備を進めています。また特に重要と言われているのが職員の体調不良時等の確実な把握と「無理して出勤しない」ための支援です。実際、職員の同居家族から「陽性者」が出てしまった事例がありましたが、その家族の勤務先で生じた「濃厚接触疑い」の時点から報告を受け、特別休暇による自宅待機指示を行いました。その後家族勤務先がクラスター認定を受け、職員家族も「濃厚接触者」から「陽性者」へと状況は進みましたが、幸いなことに職員家族は「陰性」で、当該職員はそのまま2週間の自宅待機となりました。適切な初動により施設内への持ち込みを防止することが出来た事例です。まだまだいつまで続くのか先は見えませんが、出来ることをコツコツと積み上げて参ります。



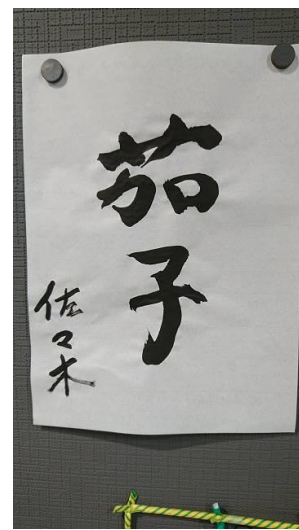
(各居室に設置したウイルス用空気清浄機)



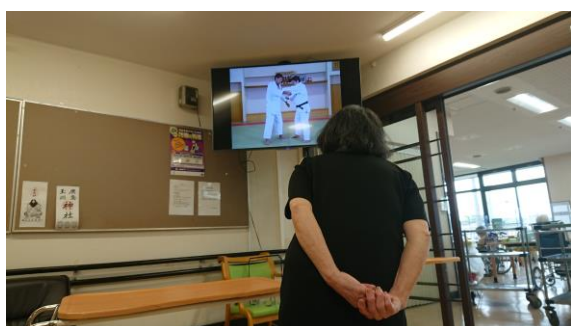
(災害・感染症対策用防災倉庫)

#### 4) 作品紹介

施設の1階ホールには、お客様の作品を掲示するコーナーがあります。掲示物は毎月更新しています。いくつかを紹介させていただきます。



#### 5) 日常風景のひとコマ



2階のデイルームには大きなクマがいつも座っています。昨年のクリスマスから座っているのですが、名前が付くわけでもなく、誰かが持ち去るわけでもなく、まわりの風景にすっかり溶け込んでいます。「誰か相手をしてくれないかな？」(クマ)。

施設のデイルームのTVはYoutubeも視聴できます。普段は美空ひばりやドリフターズ等の昔の歌手やコートの動画が流れていることが多いのですが、オリンピックのせいでしょうか、なぜか柔道の組手紹介の動画が流れていて、それををじっと見つめています。「何をしているんでしょうね？」の問いに「さあ、何をしているんだろうね。」

